

Title	「大阪大学・チューラーロンコーン大学日本文学国際研究交流集会」活動報告
Author(s)	
Citation	詞林. 2010, 47, p. 50-51
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/67613">https://hdl.handle.net/11094/67613</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 「大阪大学・チュラーロンコーン大学 日本文学国際研究交流会」活動報告

去る三月十一日、本学待兼山会館において「大阪大学・チュラーロンコーン大学日本文学国際研究交流会―交叉する時空―」と題した研究フォーラムが開催されました。本研究会も共催として参加しましたので、ご報告いたします。

この集会は、タイのチュラーロンコーン大学と大阪大学の日本文学研究者が集い、研究交流の場をもつことを目的としたものです。阪大側も、留学生を中心に発表者を募り、事前の勉強会を重ね、当日を迎えました。

当日は、他分野の方々も多くご参加下さり、充実した集会となりました。終始アットホームな雰囲気でしたが、両大学の大学院生による、『枕草子』から現代文学まで多岐にわたる研究発表には、さまざまな関心からの議論が展開されました。今回は、九本の研究発表を三ブロックに分け、各ブロックにディスカサントを設けるという形式を試みましたが、発表の論点や課題がフロアに示され、議論を促す有意義なものだったと思います。特に発表者と留学生が議論を繰り広げる光景は刺激的で、世界文学としての日本文学の可能性を実感する場となりました。

最後に、チュラーロンコーン大学のドゥアンテム・クリサダーターノン先生に、今回の集会の総評をお願いし、今後情報交換の場を設けたいとのコメントをいただきました。

この集会は、かつて阪大で学ばれ、現在はチュラーロンコーン大学助教授として活躍されているアッタヤ・スワンラダー氏や、荒木浩先生のご尽力によるところが大きいものですが、これを機会として、継続的に交流してゆきたいと考えています。

なお、今回の成果は、チュラーロンコーン大学で刊行される論文集にまとめられる予定です。ここには、当日のプログラムを掲載します。  
(丹下)

大阪大学・チュラーロンコーン大学

日本文学国際研究交流会―交叉する時空―

日時 二〇一〇年三月十一日(木)午後一時～

会場 待兼山会館二階会議室(大阪大学豊中キャンパス)

主催 大阪大学日本文学研究室・チュラーロンコーン大学文

学部東洋言語学科日本語講座

共催 大阪大学文学研究科・国際交流基金・大阪大学古代中

世文学研究会

開会の挨拶

荒木浩 (大阪大学教授)

〈第一ブロック〉

① Marin Viriyapongpanich (マリーリン・ヴィリヤポンパーニッチ) 『枕草子』に見られる「顔」に関する記述について (チュラーロンコーン大学大学院生)

② 宮川真弥 『枕草子春曙抄』『清少納言枕草紙抄』の「原拠本」について―『徒然草文段抄』所引『枕草子』を手掛りに― (大阪大学大学院生)

③ Penporn Kawfoongrungsi (ペンポーン・ケオフォンランシィー) 『昔話を素材とした芥川龍之介作品の特徴―桃太郎を中心として』 (チュラーロンコーン大学大学院生)

デイスカサント  
荒木浩 (大阪大学教授)  
〈第二ブロック〉

④ カナバット・ルーンピロム (Kanapat Ruengjorn) 『曾我物語』における北条政子の説話―苦悩の克服の様相― (チュラーロンコーン大学大学院修士、大阪大学大学院研究生)

⑤ Puttarak Kate-ern (プッタラク・ケイトエーム) 『潮騒』に見られる共同体社会の変化とその影響 (チュラーロンコーン大学大学院生)

⑥ モハammad・モインウッディン (Md Moinuddin) 『志賀直哉『十一月三日午後の事』をめぐって―他者へのまなざし―』 (大阪大学大学院生)

デイスカサント

荘千慧 (大阪大学大学院生)

〈第三ブロック〉

⑦ Jittapa Nitsiri (チャッターパー・ニティスイリ) 『二百年の子供』における二項対立、時間と周縁の力 (チュラーロンコーン大学大学院生)

⑧ カリナ・ナルバンディアーン (Karina Nalbandian) 『The Tale of Genji』における変更―『源氏物語』の三つの英訳― (大阪大学大学院生)

⑨ Thanjita Kamaeng (タンチュター・カムヘン) 『江國香織の小説における「干渉者」』 (チュラーロンコーン大学大学院生)

デイスカサント  
ホルカ・イリナ  
(大阪大学大学院生・大阪大学特任助教)

全体の総括 Duantem Krisdathanont (ドゥアンテム・クリサターターノン) (チュラーロンコーン大学教員)

閉会の挨拶 アッタヤ・スワンラダー (Attaya Suwanrada) (チュラーロンコーン大学助教授・大阪大学外国人招聘研究員)